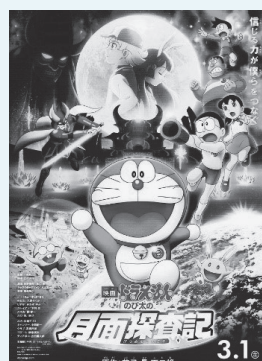


# 「東海ワンコイン劇場2019」

入場料500円の「東海ワンコイン劇場2019」。この機会にぜひ、お好きな映画をお楽しみください。

期日等▼

期日	時間	作品名等
2月8日 (土)	①午前10時～ ②午後2時30分～	「ドラえもん のび太の月面探査記」(2019年 東宝、上映時間111分、プレゼント(うさ耳ドラ)あり)
	①午後0時20分～ ②午後4時50分～	「トイ・ストーリー4 (吹き替え版)」(2019年 ウォルト・ディズニー・ジャパン、上映時間100分)
2月9日 (日)	①午前10時～ ②午後2時50分～	「日日是好日」(2018年 東京テアトル、上映時間100分)
	①午後0時10分～ ②午後5時～	「アラジン(吹き替え版)」(2019年 ウォルト・ディズニー・ジャパン、上映時間128分)



©藤子プロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ・ADK 2019

場所▼東海文化センター

入場料▼500円/人(全席自由・3歳以上有料)※上映当日、入場口でお支払いください。

問い合わせ▼東海文化センター(☎282-8511)

ふるさと歴訪

〜歴史を再発見〜

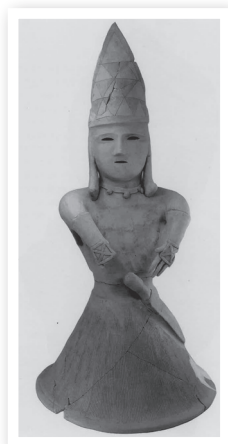
## 埴輪が見せる眼差し(まなざし)の先に

東海村文化財保護審議会委員

藤井 学昭

2008年、石神外宿の古墳群での下水道の工事中に、土器や埴輪片、人物埴輪が発見されました。刀を身に着けた武人埴輪(左写真や笠をかぶった人物像等が作られたのは、6世紀中頃のようなようです。キリツと前を向いた、りりしい顔の武人埴輪ですが、この眼は一体どこへ向き、何を守ろうとしているのでしょうか。何か寂しげな表情を見せる姿が気に掛かります。

4世紀半ばから5世紀にかけて、近畿を中心とした首長たちの連合(ヤマト朝廷)が常陸国での勢力範囲を広げつつある当時、石名坂はこの地の有力な土豪が支配する本拠地だったと、かつて父が話してくれました。石岡、石塚、石神など頭に「石」の字が付く地名は、その名残だそう。そこには、ヤマト朝廷から「まつろわぬ民」と嫌われ、「蝦夷」(国果)「鬼」などと蔑視され駆逐されていった民が住んでいたのでしょう。ヤマトの支配が北上する中、久慈川を挟み石名坂とその背後に連なる阿武隈山脈地へと、ヤマトの兵士である埴輪の眼は向けられていたのかもしれない。ヤマトの力が及ばない境界の地の最



前線に立たされるその緊張感と憂いが見て取れそうです。また、兵士は必ずしも西から来たヤマトの者とは限らず、先住民がヤマトの兵士にさせられたことも十分に想像できます。その眼にさまざまな思いが巡ります。

この埴輪が作られて150年ほど後、7世紀末の常陸国に、陸奥(多賀城)に至る「官道」(蝦夷征討のための軍用道路)が造られます。府中(現・石岡市)以北の6か所に「駅家」が配置され、その一つである「石橋」は、東海駅西口付近または内宿二区地内ではないかとの説があります。この道を坂東各地から駆り集められた何千何万もの兵士が、蝦夷征討を「鬼魔退治」と称し幾度も行軍していき、やがて802年、坂上田村麻呂率いる5万の兵は、蝦夷の首長アテルイを捕まえ斬首します。

小説「火怨 北の耀星アテルイ」(高橋克彦著)に、処刑を見ている民らに対しアテルイが「俺たちは何も望んでおらぬ。ただそなたらと同じ心を持つものだ」と示したただけだ。蝦夷は獣にあらず。鬼でもない。子や親を愛し、花や風に遊ぶ…と叫ぶ場面が描かれています。改めて埴輪が見せる眼差しに、歴史をひもとく大切さを感じたいと思います。